

業務概要

目的

大田区では、心のバリアフリーの普及・啓発について小中学校の総合的な学習の時間を活用して福祉部門が出前講座(障害当事者の講話とワークショップや体験)を行っている。

しかし、大人を対象とした普及・啓発が実施されていないことから、2014年度より地域のコミュニティに関わる方々を対象にユニバーサルデザインの研修を行うこととした。

概要

区内18の地区(特別出張所管内)ごとに毎年3～4地区で「ユニバーサルデザイン実践講座」を開催し、2014～2018年度の5か年をかけて全地区で開催することとしている。講座は「障害当事者や家族からの講話(知的障害者の親の会、視覚障害者、聴覚障害者、車いす使用者、精神障がい者家族連絡会)」「車いす体験・ガイドヘルプ体験」「質疑応答」を柱に3時間半の構成としている。

各地区とも約20人の参加があり、終了後のアンケートでは『直接障害のある人の話が聞けた』『体験でよく理解できた』など、多くの参加者から『良かった』との評価を得ている。

実績

2014年度と2018年度はそれぞれ3地区、2015年度と2016年度はそれぞれ4地区で実施し、民生委員、町会役員を中心に多くの区民が参加した。

プログラムの概要

プログラム

1. 講話

知的障害理解(ミニワークショップ込み30分)は親子で、視覚障害理解・聴覚障害理解・車いす使用の理解(各15～20分)については障害当事者から、精神障害理解(20分)では、当該当事者や家族から講話頂いた。その後、休憩時間に視覚障害・聴覚障害の生活支援機器の展示を見学し、作動体験を行っている。

2. 体験(車いす体験・ガイドヘルプ体験)

車いす体験では、車いすの構造特性の説明を受けて、実際に手動車いすを使って自走して施設の中や、道路を移動し、バリアフリー整備の必要性を実感する。

視覚障害については、街の中で出合った視覚障害者への対応が重要であり、実際に役立つことから、視覚障害者への対応と適切な支援(ガイドヘルプの基本事項)を体験して学ぶプログラムとしている。

体験風景

